

## Q<sub>3</sub> 家庭でもエネルギーはつくれるの？ 設備を整えれば、つくれます。



- 太陽光発電システム** 住宅の屋根などに設置した太陽電池で発電する、最も身近な発電方法。市は住宅用太陽光発電の導入実績を平成42年度までに平成23年度比の6.5倍に増やす目標を掲げています。
- エネファーム (家庭用燃料電池)** ガスから水素を生成し、酸素との化学反応によってエネルギーをつくる仕組みが、家庭菜園のイメージに似ていることから、エネルギーとファーム(農場)で「エネファーム」。発電の際に発生する熱を有効利用してお湯などをつくる無駄のないシステム。市では平成42年度までに導入実績を平成23年度比の150倍に増加させることを目標にしています。
- 太陽熱** 太陽のエネルギーを集熱器に集めて水や空気などを暖め、給湯や冷暖房などに利用するシステム。システムが単純なので導入やメンテナンスも楽。太陽光に比べエネルギー効率が高い。家庭の電力の多くが暖房や給湯に使われることから、太陽光発電とあわせて使えば一層効果的。

## Q<sub>4</sub> 太陽光発電ってお得なの？ つくって余った電気は 買い取ってもらえます。



昼間、発電した電気は家庭で使用して電気代の節約に。余った電気は電力会社に買い取ってもらえます(固定価格買取制度※1)。ただし、発電設備導入にかかる費用や買い取りの期間などの条件がありますので、それらを考慮し「何がお得なのか」を総合的に判断・理解することが重要です。

### ● 標準家庭※2に太陽光発電を設置した場合の例

+ 25,000円(導入後に減らせた電力料金)  
+ 104,000円(余った電気を売った電力料金) = **129,000円**  
太陽光発電導入の効果(年間)

※1 固定価格買取制度…再生可能エネルギーで発電した電気を電力会社が一定価格で買い取る(現在は、10年間)を国が約束する制度。  
※2 標準家庭…契約電流が40アンペアで電力料金が月平均7千円(年間およそ8万5千円)の家庭に、出力4.0kWの太陽光発電を設置し、9時から15時まで発電した場合の電力料金削減額と余剰電力売電収入を予測。

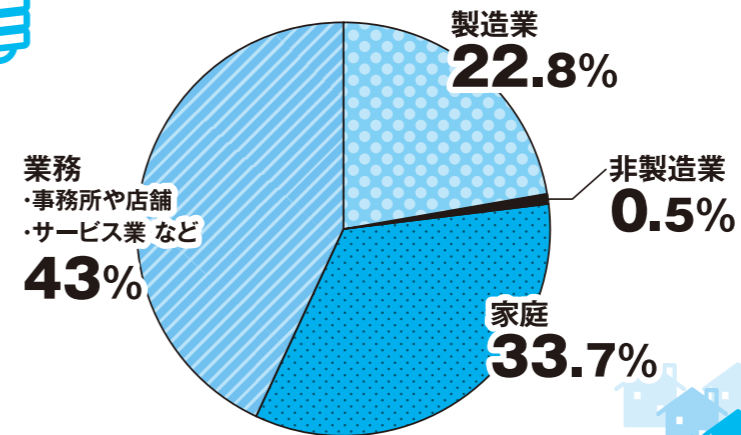
家庭用発電設備の設置には、市の補助金を利用することができます。(P10参照)  
問い合わせ先  
エネルギー政策課  
☎457-2502

「お得」を実感!  
この家庭のように、4.0kWの発電設備を今年度(平成28年度)設置する場合、設備導入時に平均で1,412,000円の費用がかかりますが、補助金(県・市)の利用で、実質1,332,000円で設置可能です。一方、固定価格買取期間の10年間で1,290,000円分の節電・売電収入などが確保できるため、10年でほぼ投資回収ができる計算になります。11年目以降も、太陽光発電分の電力料金削減は継続し、余った電力は個別に電力会社への販売が可能。再生可能エネルギーを活用したライフスタイルを実現し「お得」な暮らしを実感してみませんか。

## Q<sub>1</sub> 現在、市全体で消費している電力はどのくらい？ 市の年間総電力消費量はおよそ50億kWh (そのうち家庭での消費電力量はおよそ34%)



〈市内での電気の使い道〉



およそ50億kWh  
140万世帯が1年間に消費する電力量に相当  
※日本の平均的な世帯の年間電力消費量 3,600kWh/年をもとに算出



## Q<sub>2</sub> 地産のエネルギーでどれだけ電力自給できるの？ 平成26年度現在は54.8%だけど、 100%も夢じゃない!



平成26年度現在、市の電力自給率は再生可能エネルギーなどで8.2%(国は6%)、市内にある天竜川水系のダムでの大規模水力発電の46.6%を含めると54.8%になります。平成42年度には、再生可能エネルギーなどを20.3%まで引き上げることが目標にしています。  
将来、再生可能エネルギーの発電設備を建物の屋根や遊休地など市内で設置可能と思われる場所すべてに導入したとすると、再生可能エネルギーなどは52.9%となり、大規模水力発電を含めると計算上、自給率は、99.5%に達します。

